

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	<ul style="list-style-type: none"> 『認定こども園全体計画』に基づき、子どもの実態をとらえて指導計画をたて実践した。子ども理解を深め、保育内容の発信や振り返りの考察に保育ドキュメンテーションを作成し、配信アプリで保護者にも配信し、伝えていくことを始めた。 今年度の園内研究テーマを「遊びや活動を通して人とつながる力を育てる」～友達や大人の関わりが豊かになる環境づくり～とし、一人一人の個性や発達段階を尊重した教育保育の取り組みを進めていくために、保育アドバイザーにアドバイスを受け、子ども理解を深め遊びや保育環境を見直し実践に取り組んだ。
健康支援	<ul style="list-style-type: none"> 5歳児クラス対象に命の安全教育指導に取り組んだ。体の話と題して排泄・心臓・プライベートゾーン等について、自分の体を大切にするという事を基本に、命の始まりの卵の大きさを見てわかるように示し、命の道という表現でわかりやすく伝えた。 毎月の保健日よりで保健行事や感染症について情報発信を行った。特に感染症流行時には速やかに情報を伝え、園と家庭が協力して予防に取り組めるようにした。
安全指導・危機管理	<ul style="list-style-type: none"> 毎月施設全体の安全点検を実施し必要な所は修理修繕を行い、施設や遊具の安全に留意し事故防止に努めた。 避難訓練を定期的実施し、身を守る行動や保育者の誘導等を確認してきた。担当を中心に事前事後で検討し、スムーズに避難できるように改善策を職員に周知し共通認識を図るように努めた。災害時の迅速な判断と行動に繋げていきたい。
食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各クラス菜園活動を行い、育てた野菜を収穫し、クッキングして食べる喜びを経験し、食に関心を持つきっかけになっている。また、技能職員と連携して、年齢に応じて給食食材の下準備の皮むきやほぐしを経験するなど、クッキングを行う中で食に関わる経験を楽しんできた。食べる事はすべての元となる事なので意欲的に子ども達と楽しんで取り組んでいきたい。
子育て支援（在園児および地域）	<ul style="list-style-type: none"> 保護者とは日々の何気ない会話ややり取りの中で信頼関係を築き、いつもと様子が違う時なども園の職員から声掛けを行い、話を聞き、子育てに悩みや不安がある保護者には適宜面談を持ち、話を聴くようにした。 地域支援員と連携をし、地域と各クラスがびよびよ、わんわん等で年齢別交流を深めてきた。在園児は交流する中で、褒められることで自信につながっていった。また地域の方にも子どもの成長していく姿やこども園のよさを実感していただけた。次年度も子どもの現状からクラスがねらいを持ち、交流を考えていく。 技能職員は離乳食講座やおやつ講座などの食育を通して質問や相談を受け地域と関わった。
インクルーシブ教育保育	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達一人一人の個性を踏まえ、集団の中での育ち合いを大切に、教育保育を進めている。子ども理解や関わり方についてアドバイザー派遣研修で愛着について学び、児童発達支援センターの職員から子ども達への関わりについて助言をいただくなど、子ども理解について学びを深め実践につなげていった。 就学前の保護者には特に丁寧に話す場を持ち、就学に向けての支援や就学先とつなぐなどの配慮を心掛けた。

<p>職員の資質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園内の人権研修において、職員の人権感覚のスキルアップを図る為、同和保育、子ども理解、多文化共生について、職員自らが考え、どう取り組んでいくかを話し合い学びへと繋げた。また『人権擁護のためのセルフチェックリスト』を用いて自分の保育の振り返りを行った。 ・教育保育内容をより分かりやすく伝えるために、配信アプリで保育ドキュメンテーションを作成し、幼児期までに育みたい 10 の姿から子ども達の育ちを保護者に伝えていった。
<p>幼保こ小中の連携・接続</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第十八中学校区「子育て・ふれあいの会」に参加し、関係機関（小学校、中学校、人権平和センター）と定期的に情報交換の機会を持ち、連携している。（めざす 18 歳像をもとに） ・“地域の子ども達を地域で育てる” “子ども達が信頼できる大人に出会える” という地域の取り組みを進めていく中で、継続した取り組みや校種を超えた連携に努めている。 ・幼保こ小校区連絡会では、架け橋期について各学校園所と情報交換を行い、就学先の小学校には園訪問をしていただき、引継ぎを細やかに行った。今後縦のつながりと同時に横のつながりも作っていききたい。
<p>評議員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度のこども園の取り組み、計画や目標について報告、地域支援の事業や園の実践を具体的に見ていただき意見交換する機会となった。 ・総括として、子ども達が信頼できる大人に出会い、安心して過ごせる地域をめざして共に取り組んでいく事を確認し合った。評議員には小中学校の校長も含まれているので、併せてこども園の取り組みについて継続して意見をいただきながら園の教育保育に活かしていきたい。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発達保育実践政策学センター「保育の質と子どもの発達に関する縦断的研究」に保護者の同意の元、継続して参加している。保育の質も含んだ環境の重要性や職員の意識も変わってくるので、質の向上やスキルアップに取り組んでいく。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

<p>課 題</p>	<p>具体的な取り組み方法</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・園の取り組みの保護者へ伝え方 ・システム活用 ・保護者の相談できる場所作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から始めた保育ドキュメンテーション機能を活用した保護者への発信に力を入れていく。システム機能を活用しながら、園の教育保育のねらいや内容について写真等を使ってわかりやすく伝えていく。 ・子育ての悩みや困ったことに対して相談できる場所がないという意見が一定数あり、相談してみようと思える職員であるために日頃からの保護者との会話をより一層大切にし、保護者の思いに寄り添い関係を深めていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・職員の資質向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の子ども達の現状やその背景を丁寧に把握して子ども理解を深め、広い視野を持って自分自身の保育や言葉がけや関わりを振り返り、常に見直しながら実践していく。 ・職員が研修を企画、講師の選定や実施までの準備等を行い、学んでいきたい事、取り組んでいきたい活動を明確にしていく事を継続する。目的を明確に持って活動を選ぶことで、保護者により具体的に伝えていく事ができるようになることをめざしていく。

令和 7 年（2025 年）3 月 31 日

豊中市立 螢池こども園

園長名 伊永 香織